

プレゼンテーション教育を通じた WRD科目の実践

神奈川工科大学 基礎教養・教育センター
(成城大学 WRD10 担当)

師玉 真理

◆ 本日のお話 ◆

- 1) 神奈川工科大学におけるWRD教育
- 2) プレゼンテーション教育について
- 3) 成城大学におけるWRD科目の実践

1) 神奈川工科大学におけるWRD教育

- ① 学生層と教育指針
- ② 学生の意識変革について
- ③ 教育上の自己認識について
(私的にこころ掛けている事)

① 学生層と教育指針

- 学力: 偏差値40代前半
- リテラシー(コミュニケーション能力):
こと「話す」「書く」ことについては低い。
- 意識: 「自分はやらない」
← 何ができて何ができないのか、
自ら判別できない学生が多い。
⇒ みずから考える能力の欠如

① 学生層と教育指針

- 最低レベルの文章表現技術から
 - ・ 留学生向け日本語教授法を取り入れた教科書
- 陶冶的な側面
 - a) 礼儀やメンタリティ
 - ・ 口の利き方、人との接し方、
心的な姿勢、またその見せ方… 等々
 - b) 《あたりまえのこと》のライン
 - ・ 最低限のラインの提示
 - c) なってほしい《学生像》
 - ・ むしろ「こんな大人になって欲しくない」という
意味で…

② 学生の意識変革

- 意識が変わらなければ何も身につかない
- ↓ 意識が変われば
- 個々の文章表現技術の位置づけも変わる
 - ・ 簡単な作業な作業のむずかしさ
ex. ノートの取り方
 - 自分を高めていく(いける)という意識
- ← **自信のなさの払拭**

③ 教育上の自己認識について

(私的にこころ掛けている事)

- プロフェッショナルとしての姿勢
 - ・ 社会で生きてきたことの経験的な格律。
 - ・ 《研究者》であることの自覚。
- 自分を語る事
 - ・ 学問のプロとしての拘り・思い。
- 《転移》するものへの配慮
 - ・ 心的な姿勢・雰囲気

2) プレゼンテーション教育について

- ・ 意識変革を徹底させるための
プレゼンテーション教育
- ① 教科書・演習について
- ② 現実(先端)とのリンク
- ③ 象徴価値としてのコンテスト

① 教科書・演習について

● 教科書(レジュメ)は、独自に作成

- ・ジーンズ・ゼラズニー
『マッキンゼー流 プレゼンテーションの技術』 他

● 演習

- ・ 実際のプロの企画書関連の資料を読ませる。
⇒ モティベーションの維持
⇒ 批評(批判)意識をねらう

② 現実(先端)とのリンク

● 身近な事例

- ・ 経験的な体験談

● 私自身の専門領域からの位置づけ

- ・ 記号論マーケティング

● プレゼンの先端的な事例

- ・ 情報収集をこころがける
ex) Cyber Vision(青山プランニングアーツ)

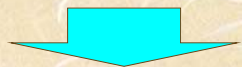
③ 象徴価値としてのコンテスト

● インターカレッジ・プレゼンテーション・コンテスト

大学対抗のプレゼン・コンテスト

● 神奈川産学チャレンジプログラム

企業と大学の連携企画としてのプレゼン・コンテスト



- ・「自信のなさ」の払拭
- ・自分を高めていく(いける)という意識
- ・クラスから拡張する雰囲気(活気)の変化

● インターカレッジ・ プレゼンテーション・コンテスト

● 学生の発案により始まる。

- ・ 第1回(2005年度)
東京外国語大学(1) 神奈川工科大学(1)
- ・ 第2回(2006年度)
東京外国語大学(1) 神奈川工科大学(2)
- ・ 第3回(2007年度)
東京外国語大学(1) 明治大学(1) 神奈川工科大学(3)
- ・ 第4回(2008年度)
成城大学(3) 東洋大学(1) 神奈川工科大学(2)
- ・ 第5回(2009年度) 予定
成城大学(2) 東洋大学(1) 東京外国語大学(1)
大東文化大学(1) 神奈川工科大学(2)

● インターカレッジ・プレゼンテーション・コンテスト 共通テーマ 優勝チーム

第1回 マンガに見る〇〇問題

第2回 恋愛—男女関係に関する表象をめぐって

(優勝: 神奈川工科大学)

第3回 病(現代における)

(優勝: 明治大学)

第4回 スポーツと〇〇

(優勝: 神奈川工科大学)

第5回 ジャッジ／事実／正しさ(仮)

(優勝: ??大学)

● インターカレッジ・プレゼンテーション・コンテスト 教育上のねらい

● 象徴価値として

- ・「自信のなさ」の払拭
- ・自分を高めていく(いける)という意識
- ・クラスから拡張する雰囲気(活気)の変化

● 企画・運営を仕事として捉え身につける機会

⇒ 自発的に動く雰囲気・人材づくり

● 神奈川産学チャレンジプログラム

「神奈川県内の社団法人神奈川経済同友会の会員企業が、日常の経営課題の中から実践的な研究テーマを提示し、これに対し学生がチャレンジするもので、提出された研究レポートは企業による厳格・公正な審査が行われ、優秀な研究については学生・大学関係者・企業関係者合同の表彰式にて、賞状・賞金が授与され、その荣誉が称えられる…」

● 参加大学: 神奈川県内における14大学

● 各企業のテーマごとに、最優秀賞、優秀賞が決まる。
(今年は、31企業40テーマ)

- ・ 同様の **象徴価値**
- ・ プラス **大学の広報活動** としての意義

3) 成城大学におけるWRD科目の実践

⇒ 毎回落ち込みながら

ただいま必死に模索中

- 課題① 活性化した雰囲気を作る難しさ
- 課題② 意識変革の難しさ
- 課題③ その他

① 活性化した雰囲気を作る難しさ

- 受け身になると後退していく空気
- 公的な発言の場になると顕著になる閉塞感
- クラスとして議論の場を活性化することの難しさ



難点1 成城の学生にフィットする《ことば》や素材

難点2 こちら(教える)側のスタンスや心的姿勢

↑
ただいま必死になって模索中！

② 意識変革の難しさ

- 自信のなさ、ひけめ・・・
- 受け身 ⇒ 能動的な思考の後退



意識変革の必要性



とば口1: 職業意識の喚起

とば口2: こちら(教える)側の職業意識

③ その他

- クラス・教員間の横断的なつながり
⇒ WRDコマ総体としての雰囲気作り
← 契機としての
学内プレゼンテーション大会
- 学生との接し方
緩急をつかいはける勘所
- 《転移》するものへの配慮
こちら(教員)側の意識・心的な姿勢・雰囲気……。